

Oracle® Virtual Directory

リリース・ノート

10g (10.1.4.0.1)

部品番号 : B31394-01

原典情報 : Oracle Virtual Directory Release Notes, 10g (10.1.4.0.1)

2006 年 8 月

このリリース・ノートでは、Oracle Virtual Directory 10g (10.1.4.0.1) に関連する問題を説明します。内容は次のとおりです。

- [Oracle Virtual Directory 10g \(10.1.4.0.1\) の新機能](#)
- [動作保証されたオペレーティング・システム、ディレクトリおよびデータベース](#)
- [一般的な問題および回避策](#)
- [Oracle Virtual Directory 10g \(10.1.4.0.1\) へのアップグレード](#)
- [ドキュメントのアクセシビリティについて](#)

注意： これは、オラクル社による OctetString 社の買収に伴う暫定リリースです。Oracle Virtual Directory (旧 OctectString Virtual Directory Engine)、Oracle Virtual Directory Manager (旧 Directory Manager Environment) およびそのマニュアルの一部では、旧 OctetString 社の社名および製品名を参照している場合があります。それらの参照内容は、今後のリリースで変更します。

ORACLE®

Copyright © 1991, 2006, Oracle.
All rights reserved.

Oracle と Oracle のロゴは Oracle Corporation の登録商標です。Oracle Virtual Directory は、Oracle Corporation の商標です。記載されているその他の製品名および社名はその製品および会社を識別する目的にのみ使用されており、それぞれ該当する所有者の商標です。

1 Oracle Virtual Directory 10g (10.1.4.0.1) の新機能

この項では、Oracle Virtual Directory 10g (10.1.4.0.1) の新機能を説明します。内容は次のとおりです。

- 機能
- 不具合の修正

1.1 機能

この項では、Oracle Virtual Directory 10g (10.1.4.0.1) の新機能を記載し、説明します。

CSV へのエクスポート機能により拡張されたレポート機能

Oracle Virtual Directory 10g (10.1.4.0.1) には、access.log ファイル・データをカンマ区切り値 (CSV) 形式で保存する、CSV への新しいエクスポート機能があります。保存されたデータは、Excel や Oracle Database などのレポート・システムにインポートできます。この CSV へのエクスポート機能を使用すると、次に示すような様々な接続データについてレポートを実行できます。

- アクセス時間
- LDAP クライアントの IP アドレス
- 接続を認証されたユーザー
- バインドまたは検索などの操作タイプ
- LDAP の結果コード

拡張されたグラフィカルなマッピング・エディタ

Oracle Virtual Directory 10g (10.1.4.0.1) では、マッピング・エディタが拡張され、マッピング・コードがグラフィカルに表示されます。通常、マッピング・コードは開発者によって記述されますが、マッピングをグラフィカルに表示する Oracle Virtual Directory 10g (10.1.4.0.1) の新しい機能により、コーディング経験のないユーザーにも簡単にマッピング・コードの再利用、編集および構成が可能です。

1 ステップ構成機能により簡略化された統合タスク

Oracle Virtual Directory 10g (10.1.4.0.1) には、Oracle Virtual Directory を Microsoft Active Directory や IBM Tivoli Access Manager と統合するなどの、一般的な統合タスクのプロセスを簡略化する 1 ステップ構成機能があります。以前は、Oracle Virtual Directory のすべての設定 (特にファイアウォールとして) の構成には、複数のステップがあり、複数の異なる構成画面を操作する必要もありました。Oracle Virtual Directory 10g (10.1.4.0.1) の 1 ステップ構成機能を使用すれば、このような構成を 1 つのウィザードで簡単に設定できます。

マルチバイト・キャラクタのサポート

Oracle Virtual Directory 10g (10.1.4.0.1) は、マルチバイト・キャラクタをサポートしています。

クライアント証明書認証

Oracle Virtual Directory 10g (10.1.4.0.1) は、クライアントが X.509 デジタル証明書を使用して仮想ディレクトリへの認証を行う機能をサポートしています。

独自の ID プラグイン

Oracle Virtual Directory 環境では、ユーザーは Oracle Virtual Directory アダプタを使用して接続する複数のサービスに重複したアカウントを所有している場合があります。通常この問題は、複数のアダプタを統合し、単一の仮想ユーザー・エントリを作成するための結合を作成することで解決します。ただし、結合の作成がオプションではない場合があります。従業員用と顧客用のディレクトリがあり、特定の従業員が仕事上の正当な目的で、両方のディレクトリにアカウントを所有していて、結合ビューを作成できない場合などです。

10g (10.1.4.0.1) に含まれる Oracle Virtual Directory 独自の ID プラグインは、信頼できるソースによって様々なアダプタをランク付けすることによりこの問題を解決します。たとえば、重複しているユーザー ID のどれが従業員のアカウントであるかを特定する場合、顧客ディレクトリよりも従業員ディレクトリの方が関連性が高いため、顧客ディレクトリのアダプタよりも従業員ディレクトリのアダプタの優先順位を高くします。

簡略化された Oracle Access Manager との統合

Oracle Virtual Directory 10g (10.1.4.0.1) には、Oracle Access Manager と Oracle Virtual Directory の統合を簡略化する、組み込みの Oracle Access Manager のテンプレートおよびスキーマが用意されています。以前は Oracle Access Manager に付属のテンプレートを手動でロードする必要がありましたが、Oracle Virtual Directory 10g (10.1.4.0.1) では、Oracle Virtual Directory Manager を使用して Oracle Access Manager のテンプレートにアクセスできます。

1.2 不具合の修正

表 1 に、Oracle Virtual Directory 10g (10.1.4.0.1) で修正された不具合を記載し、説明します。

表 1 Oracle Virtual Directory 10g (10.1.4.0.1) で修正された不具合

バグ番号	説明
5133181	この不具合により、Kerberos バインドを機能させるには、krb5login.conf ファイルにセミコロンを追加する必要がありました。
5135817	マッピング・ファイルがインストールされている場合には、この不具合により、OBJECTGUID などのバイナリ属性を検索できませんでした。
5155639	この不具合により、Oracle Virtual Directory は Web リスナーに設定されているポート番号をインストール時に認識できませんでした。
5173494	DN 値を戻すように指定すると、この不具合により、オブジェクト・クラスなどの指定されていないその他の属性が戻されていました。
5133378	複数の LDAP アダプタに複数の Active Directory サーバーが構成されている場合、この不具合により、Oracle Virtual Directory は Kerberos を使用して認証できませんでした。
5142161	同じ問合せが複数回実行されると、この不具合により、グループ・メンバーシップのための問合せに対してデータが戻されませんでした。
5133464	この不具合により、大規模な問合せ中に LDAP アダプタでメモリーが必要以上に消費されていました。

2 動作保証されたオペレーティング・システム、ディレクトリおよびデータベース

Oracle Virtual Directory 10g (10.1.4.0.1) は、次のコンポーネントに対するテストが済み、動作保証されています。

注意： カスタム・デプロイの一般的なガイドラインとして、Oracle Virtual Directory は Java ベースで、Java で接続可能なものと相互運用する必要があります。

オペレーティング・システム

- Solaris 8 および 9
- Red Hat Linux 8.0、9.0 および ES 3.0
- SUSE Linux 9 および 10
- Windows NT 4.0 SP6、Windows 2000 SP3、Windows XP Professional および Windows 2003 Server
- HP-UX 11
- AIX 5.2
- その他の Java 互換システム

ディレクトリ

- Oracle Internet Directory
- Sun JS Directory Server
- CA eTrust Directory
- IBM Tivoli Directory Server
- Novell eDirectory
- Siemens DirX
- Microsoft AD
- Microsoft AD/AM

データベース

- Oracle9i リリース 2 (9.2.0.7)、10g リリース 1 (10.1.0.5)、10g リリース 2 (10.2.0.2) RAC およびスタンドアロン・データベース
- Microsoft SQL Server
- IBM DB2

3 一般的な問題および回避策

リリース時には、Oracle Virtual Directory 10g (10.1.4.0.1) には既知の問題はありません。

4 Oracle Virtual Directory 10g (10.1.4.0.1) へのアップグレード

Virtual Directory Engine バージョン 3.x または 2.x から Oracle Virtual Directory 10g (10.1.4.0.1) にアップグレードするには、Oracle Virtual Directory 10g (10.1.4.0.1) のインストーラ・プログラムをレガシー・マシン上で実行して既存のインストールを上書きします。

注意： アップグレード・ユーティリティでは、`acls.prop` ファイルのコメントを解析できません。アップグレード前に `acls.prop` ファイルのコメントを削除し、アップグレード後に Oracle Virtual Directory Manager の ACL エディタを使用して手動で再度適用する必要があります。

5 ドキュメントのアクセシビリティについて

オラクル社は、障害のあるお客様にもオラクル社の製品、サービスおよびサポート・ドキュメントを簡単にご利用いただけることを目標としています。オラクル社のドキュメントには、ユーザーが障害支援技術を使用して情報を利用できる機能が組み込まれています。HTML 形式のドキュメントで用意されており、障害のあるお客様が簡単にアクセスできるようにマークアップされています。標準規格は改善されつつあります。オラクル社はドキュメントをすべてのお客様がご利用できるように、市場をリードする他の技術ベンダーと積極的に連携して技術的な問題に対応しています。オラクル社のアクセシビリティについての詳細情報は、Oracle Accessibility Program の Web サイト <http://www.oracle.com/accessibility/> を参照してください。

ドキュメント内のサンプル・コードのアクセシビリティについて

スクリーン・リーダーは、ドキュメント内のサンプル・コードを正確に読めない場合があります。コード表記規則では閉じ括弧だけを行に記述する必要があります。しかし JAWS は括弧だけの行を読まない場合があります。

外部 Web サイトのドキュメントのアクセシビリティについて

このドキュメントにはオラクル社およびその関連会社が所有または管理しない Web サイトへのリンクが含まれている場合があります。オラクル社およびその関連会社は、それらの Web サイトのアクセシビリティに関しての評価や言及は行っておりません。

Oracle サポート・サービスへの TTY アクセス

アメリカ国内では、Oracle サポート・サービスへ 24 時間年中無休でテキスト電話 (TTY) アクセスが提供されています。TTY サポートについては、(800)446-2398 にお電話ください。

